

臨床心理学編 第1部

臨床心理学入門シリーズ

全10巻

■時間:各巻約25～27分

1 臨床心理学とは

〈指導〉 東京都立大学 永井徹
●カラー

私たちが、日常生活の中で直面する様々な困難な出来事は、物理的、肉体的な苦しみだけでなく、心の在り方にまで大きな影響を与えている。災害や事故、いじめや不登校の問題など、複雑、多様化した現代社会では、心のケアが様々な所で求められており、このような問題を専門的に取り扱う学問として注目されているのが臨床心理学である。この作品では、その定義や領域、対象などを明らかにするとともに、臨床心理学をいかに学べばよいか、その方法や心構えについても解説する。

2 心理アセスメント

〈指導〉 鎌倉女子大学 塩崎万理
●カラー

心の問題を抱えている人に対して臨床心理学的立場から援助を行う際には、その人についてよく理解することが何より大切である。問題となっている病状の原因や、その人の考え方、感じ方など、治療上有効な判断を行う際に必要な情報を集めるプロセスを心理アセスメントという。この作品では、心理アセスメントを行う際の注意事項を示した上で、アセスメントに使用される心理テストの中からWISCやロールシャッハ・テスト、バウム・テストなど代表的なものを紹介し、さらには、人格の全体像を掴むためのテスト・バッテリーについて解説する。

3 深層へのアプローチ

〈指導〉 東京国際大学 田中信市
●カラー

心理療法を行う場合には、日常的な人間関係と異なり、クライアントの心に浮かんでくるイメージを重視する面がある。それは、イメージというものが心の深層への扉となるからであり、このイメージを媒介にして、心に潜在する治癒力を引き出して行こうとする様々な技法が考案され、実際の治療の現場で大きな効果を上げている。この作品では、まずカウンセリングの基礎について解説し、次いで比較的簡単にできる技法の例としてコラージュ療法とスキッグルを、そして最も代表的な技法である箱庭療法を紹介する。

4 認知へのアプローチ

〈指導〉 早稲田大学 越川房子
●カラー

認知とは、私たちが物事を捉える時の捉え方であり、物事をどう捉えるかが、私たちの心身にも影響を与えている。そして、この認知を直接治療のターゲットとする心理療法が、うつ病や不安の低減などに大きな効果を上げている。この作品では、我が国で用いられている療法の中からエリスの論理情動療法を取り上げ、その基本理論といくつかの技法を概観し、最近特に注目を浴びている認知に対するアプローチを紹介する。

5 福祉の領域における臨床心理士

〈指導〉 東京都立大学 詫摩武俊
●カラー

現代社会においては、心のケアが様々なところで求められている。より複雑化、多様化した心の問題を専門的に取り扱う臨床心理学を実践するのが臨床心理士である。この作品では、まず、臨床心理学と密接な繋がりをもつ社会福祉も併せて、両者の接点などについて解説する。次いで実際に臨床心理士が活動する様子を、老人施設、乳幼児施設、精神薄弱児施設を例にとり見ていき、最後に福祉の領域における心理学の今後について考察する。

6 摂食障害と思春期のころ

〈指導〉 お茶の水女子大学 青木紀久代
九段坂病院心療内科 一條智康
●カラー

摂食障害は、思春期に頻発する心身症である。多くの人かやせを賛美し、ダイエットと称して安易な食事制限を日常的に行う現代においては、誰もが陥る可能性のある心と身体の病である。

この作品では、摂食障害の医学的診断、臨床像の概要について説明し、いくつかの治療的アプローチの紹介を行い、摂食障害が“ジェンダーの病”と言われる側面について、思春期の心理的発達課題や心理—社会的背景から解説する。

7 非行の心理学

〈指導〉 科学警察研究所 内山絢子
●カラー

昨今、少年による凶悪事件が続発している。なぜ、少年は非行を犯すのだろうか？どのような心の闇が少年を非行へと追いやっているのだろうか？非行少年に悪いことをしているという意識はないのだろうか？さらに、非行をした少年はどのような罰を受けるのだろうか？

この作品では、非行少年とは何か、法執行の過程でどのように扱われるのかを示しながら、上記の疑問に答えるような少年非行の原因について、親子関係など家庭の問題、学校や社会環境の問題などから考察する。

8

パーソナリティ・テスト

〈指導〉 東京都精神医学総合研究所
溝口純二 ●カラー

パーソナリティ・テストは人の性格を明らかにする検査のことで、心理査定(アセスメント)の一部である。心理査定とは種々の検査を用いて知的能力、性格、作業能力などを明らかにし、その人を理解しようとする方法である。その理解に基づいて、適切な援助方法を検討するのである。パーソナリティ・テストは性格を把握するための方法なので、被検者が反応を意識的にコントロールできない検査が多い。

この作品では、使用上の留意点について述べた後、使用頻度の高いロールシャッハ・テスト、TAT、描画法などを紹介する。

9

不登校

〈指導〉 筑波大学 田上不二夫
●カラー

学校は社会人としての資質を養うために、子どもたちが文化や社会生活を学ぶ修業の場である。教科の学習や集団生活など子どもたちのストレスも高いが、人間関係や各種の活動によってストレスは緩和される。ところがなんらかの理由で人間関係や学習がうまくいかなくなると、学校生活が楽しくなくなり登校することが負担になる。そして学校ストレスによる疲労が重なると、子どもは登校できなくなる。

登校しなくなると、子どもは人間関係を避け、活動も限定的になる。学校生活から脱落し登校しなくなった自分を、人がどうみているか気にするためと思われる。

援助の基本は、リラックスした人間関係を広げ、社会生活や学校生活を楽しくし、学校ストレスを少なくすることである。そのための学校環境と子どもが折り合うための手立てが考えられている。またチームによる支援についても考える。

10

いじめ

〈指導〉 東京国際大学 託摩武俊
●カラー

いじめとは強者が弱者に対し、無抵抗あるいは微弱な抵抗しかできないことを承知の上でさまざまな圧力を加え、弱者が苦しみ困惑する姿をおもしろいと感じることである。冷酷で嗜虐的な心が加害者の側に認められる。

どの子どもにもいじめられる可能性があるが、多数者からみて異質なものが対象となりやすい。弱い立場のものだけでなく優れているものが嫉妬からいじめられることもある。最近の子どもは一对一のけんかが少なく多数が一人をいじめることが多くなったといわれるが、いじめの背景にはさまざまな要因がある。いじめて喜ぶ子どもにも、いじめられる子どもにも、それぞれの特色が認められる。

・お問合せ・お申込みは

(映) 有限会社 博映商事

TEL 092-741-0306 FAX 092-741-6628

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-31-220

【HP】 <http://hakuei-shoji.jp> 【E-Mail】 info@hakuei-shoji.jp